

# 令和4年度水稻・麦類・大豆奨励品種の特性表

令和4年4月  
山口県農林総合技術センター

## 水稻

種 類	早 中 晩	品 種 名	来 歴 育 成 場 所 育 成 年	採 用 年 度	試 験 地	移 植 期 月 日	出 穂 期 月 日	成 熟 期 月 日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m <sup>2</sup>	芒 の 多 少 ・ 長 短	草 型	穂 発 芽 の 難 易	脱 粒 性	玄 米						食 味	抵 抗 性						適 地	栽培上の留意事項等	概 評		
																腹 白 の 多 少	心 白 の 多 少	リ ッ ト 重 g	千 粒 重 g	収 量 kg/a	品 質		葉 い も ち	穂 い も ち	白 葉 枯 病	紋 枯 病	ご ま 葉 枯 病	カ ラ バ エ			倒 伏	優 点	欠 点
種 類	早 生	ひとめぼれ	母 コシヒカリ 父 初星 古川農試 平成3年	平10	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.24 8.11 7.28	8.29 9.18 9.6	84 92 81	19.4 19.8 19.3	440 403 478	やや 少・ 短	偏 穂 数	難	難	微	微	838 835 868	22.6 22.8 22.8	50.4 53.6 65.5	上 上 中	上 上 中	弱	弱	竹 弱	中	中	—	竹 弱	山間～中間 中庸田	耐倒伏性はやや劣るため、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、 白葉枯病弱 倒伏やや弱
		コシヒカリ	母 農林22号 父 農林1号 福井農試 昭和31年	昭54	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.24 8.09 7.30	8.27 9.17 9.8	90 96 89	18.1 18.5 18.6	404 389 445	少・ 短	中 間	難	難	微	微	834 844 865	21.2 21.7 22.0	49.5 50.7 62.0	上 上 中	上 上 中	弱	弱	中	強	中	中	弱	山間～中間 中庸田 早植地帯	倒伏しやすいため、施肥・水管理に注意する。特に、多肥栽培は避ける。 いもち病に弱いため、予防、適期防除に努める。	食味極良 穂発芽難	いもち病弱 耐倒伏性劣 長稈
		晴るる	母 ヤマハウシ 父 コシヒカリ 山口農試徳佐分場 平成9年	平9	本場 分場	5.15 6.10 5.10	7.27 8.12 8.2	9.1 9.20 9.12	83 90 81	18.7 19.1 18.8	426 412 460	無	中 間	竹 難	難	微	微	833 841 868	23.0 23.3 23.8	57.0 55.3 67.9	上 上 中	上 上 中	竹 弱	竹 弱	中	竹 弱	中	中	竹 強	山間～中間 中～肥沃田	いもち病、紋枯病の適期防除に努める。 2次枝穂の熟れが遅れやすいため、多肥栽培を避け、刈遅れに注意する。	倒伏やや強 収量安定 良質 良食味	いもち病、 紋枯病やや弱
		日本晴	母 東海7号(ヤマビコ) 父 幸風 愛知農試 昭和38年	昭44	本場 分場	6.10 5.10	8.18 8.11	9.27 9.25	84 83	19.7 20.1	387 432	少・ 短	偏 穂 数	難	難	少	微	843 850	23.0 23.0	60.4 66.0	上 上 中	上 上 中	中	中	強	中	弱	中	竹 強	中間～平坦 肥沃田	葉色がやや淡いため、生育初期の過肥に注意する。 ごま葉枯病にやや弱いため、砂質浅耕土の秋落田、ごま葉枯病常発田は避ける。	強稈 安定多収 白葉枯病強	ごま葉枯病 やや弱 秋落ち易
		きぬむすめ	母 キヌヒカリ 父 愛知92号(祭り晴) 九州沖縄農研センター 平成17年	平21	本場 分場	6.10 5.10	8.20 8.13	9.29 9.24	87 77	17.6 18.0	365 365	希・ 短	中 間	中	難	微	微	840 849	22.0 22.1	58.8 64.0	上 上 中	上 上 中	竹 弱	中	竹 弱	中	—	—	竹 強	中間～平坦 中～肥沃田	初期の分けつ発生を促すため、深植、深水管理を避ける。 籾数過多となると品質が低下するため、極端な多肥栽培を避ける。 いもち病の適期防除に努める。	良質 良食味	いもち病、白 葉枯病やや弱
	中 生	中生新千本	母 農林22号 父 隼 愛知農試 昭和25年	昭42	本場	6.10	8.23	10.5	86	18.8	455	中・ 中	穂 数	中	中	中	微	836	22.9	55.9	上 下	上 下	中	中	弱	弱	弱	強	強	中間～平坦 中～肥沃田	分けつが旺盛なため、基肥減肥、適切な水管理に注意し、過繁茂による倒伏を避ける。 青枯れが発生しやすいため、過肥にしない。	収量安定	白葉枯病弱 腹白多い 青枯発生し やすい
		ヒノヒカリ	母 黄金晴 父 コシヒカリ 宮崎農試 平成元年	平8	本場	6.10	8.24	10.5	90	18.7	388	稀・ 短	偏 穂 重	難	難	微	微	841	22.3	56.1	上 中	上 上	中	中	弱	中	中	—	強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	やや長稈のため、多肥栽培は避ける。 外観品質が低下しやすいため、早期落水をしない。 刈遅れるとうす茶米、胴割米が発生しやすい。	良食味 登熟良好	1穂籾数が 多いと品質 変動が大き い
		恋の予感	母 西海232号(きぬむすめ) 父 中国178号 近畿中国四国農研センター 平成26年	平29	本場	6.10	8.28	10.11	80	18.9	353	稀・ 短	偏 穂 重	竹 難	難	微	微	830	22.5	63.2	上 中	上 上	中	竹 強	竹 弱	中	中	—	竹 強	瀬戸内沿岸 の平坦 中～肥沃田	移植時期が遅れると、減収や登熟遅延の懸念があるので、極端な晩植は避ける。 葉いもちに強くないため、適切な防除に努める。	やや多収 良質 高温耐性竹 良食味	登熟期間が低 温の場合、登 熟が遅延しや すい
	糯 生	ミヤタマモチ	母 南海76号 父 みのたまもち 宮崎農試 平成2年	平7	本場	6.10	8.23	10.5	86	19.7	312	少・ 中	穂 重	難	難	—	—	825	29.1	58.3	上 中	上	竹 強	竹 強	竹 強	中	—	強	中間～平坦 中～肥沃田	ふ先色が「黄白」のため、稈種との混種に注意する。 1穂籾数の確保と登熟向上のため、太植えや過肥は避ける。	良質多収 強稈	刈遅れると 糠色が濃く なる	

(注) 1 奨励品種決定調査による  
2 試験地は本場が農林総合技術センター(山口市大内)、分場が旧徳佐寒冷地分場(山口市阿東徳佐)  
3 表中の値は本場が平成29～令和3年の5ヵ年平均、分場が平成10～18年の9ヵ年平均(「きぬむすめ」は平成16～18年の3ヵ年平均)

## 麦類

種類	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	出穂期 月日	成熟期 月日	稈長 cm	穂長 cm	穂数 本/m <sup>2</sup>	芒の長短	株の開閉	脱粒性	播性程度	千粒重 g	容積重 g/L	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	抵抗性					栽培上の留意事項等	概評	
																			うどんこ病	赤かび病	縮萎縮病	倒伏	穂発芽		優 点	欠 点
小麦	ふくさやか	母 シラサキコムギ 父 シロガコムギ 近中四農研センター 平成14年	平18	11.17	4.4	5.29	88	8.3	435	中	竹開	中	II	36.2	800	49.7	中の上	9.4	竹弱	竹弱	中	強	中	短穂で倒伏に強い。穂肥を中心に通常より施肥量を増やすことで増収をねらう。穂発芽性は「中」のため、適期収穫に努める。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。	早生、良質、多収 倒伏に強い 製めんの色と粘弾性優れる	穂発芽耐性が不十分 うどんこ病にやや弱い
	せときらら	母 A*9/B//A*9/B 父 A*9/B//A*9/C A:ふくほのかB:AC DomainC:北見春63号 近中四農研センター 平成25年	平25	11.17	4.4	6.1	95	8.7	425	中	竹開	中	I	43.0	811	64.9	中の上	11.0	弱	強	中	竹強	強	過繁茂になると倒伏する可能性があるため、極端な早播きは避ける。子実タンパクが低くなる傾向があるため、開花期追肥の実施等により子実タンパク向上に努める	良質、多収 製パン性を高める遺伝子を持つ	子実タンパクがやや低い
裸麦	トヨノカゼ	母 四系9123 父 四国裸90号 近中四農研センター 平成17年	平22	11.17	3.30	5.19	93	4.9	403	竹長	竹閉	難	V	32.4	823	52.1	上 下	—	中	竹弱	竹強	竹強	竹難	湿害に強くないため、排水対策を徹底する。赤かび病には強くないため、防除を徹底する。過繁茂になると、倒伏が多くなる。	強稈、多収	赤かび病にやや弱い
二条大麦	サチホゴールド	母 大系R4224 父 関東二条29号 栃木農試 平成21年	平26	11.17	3.24	5.15	100	6.7	554	竹長	竹開	竹難	I	49.9	685	52.5	中 中	—	極強	竹強	極強	竹強	中	出穂が早く、凍霜害が発生する危険があるため、極端な早播きは避ける。排水対策、赤かび病の防除を徹底する。	良質、縮萎縮病に強い 醸造適性が優れる	側面裂皮の発生がやや多い

(注) 1 奨励品種決定調査による。ただし、数値以外の特性は育成地のデータによる。  
2 表中の値は、平成29～令和3年産の5カ年平均。ただし、ふくさやかの子実タンパクは29年産を除く4カ年平均。「せときらら」には開花期追肥(窒素成分で0.6kg/a)を実施。

## 大豆

秋 夏 大豆 別	早 中 晩	品種名	来歴 育成場所 育成年	採用年度	播種期 月日	開花期 月日	成熟期 月日	生態型	主茎長 cm	分枝数 本/株	主茎節数 節	胚軸色	花色	子実				百粒重 g	紫斑病抵抗性	蔓化の難易	倒伏の難易	収量 kg/a	品質	子実タンパク% %	用途	栽培上の留意事項等	概評	
														種皮色	臍色	粒形	大小										優 点	欠 点
秋大豆	中の晩	サチユタカ	母 フウカ×エンレイ 父 エンレイ 九州農試 平成13年	平12	6.14	7.30	11.1	IIIc	54	4.9	14.3	紫	紫	黄白	黄	球	大の 小	36.4	強	難	難	39.3	中の上	46.3	豆腐 (味噌醤油)	莢数が少ないため、栽植本数を確保する(15本/m <sup>2</sup> 程度)。播種が7月中旬以降となる場合、栽植本数を20~25本/m <sup>2</sup> の密植とする。カメムシ防除を徹底する。ウイルス病に強くないため、黒大豆の隣接は避ける。	強茎、良質、多収、 紫斑病に強い。 加工適性優れる。	やや少莢
秋大豆	中の晩	サチユタカA1号	サチユタカ×ハヤヒカリにサチユタカを5回連続戻し交雑 作物研究所 平成24年	令3	6.14	7.31	11.1	IIIc	52	4.7	14.2	紫	紫	黄白	黄	球	大の 小	37.2	強	難	難	40.4	中の上	45.1	豆腐 (味噌醤油)	成熟期以降も莢がはじけにくい特性(難裂莢性)を持つが、収穫が遅れると品質低下を招くため、適期収穫に努める。その他はサチユタカと同じ。	難裂莢性を持ち、自然脱粒や収穫ロスが少ない。その他はサチユタカと同じ。	子実タンパクがサチユタカよりもわずかに低い。

(注) 1 奨励品種決定調査による。  
2 試験地は農林総合技術センター(山口市大内)。  
3 表中の値は平成29年~令和元年の3カ年平均。